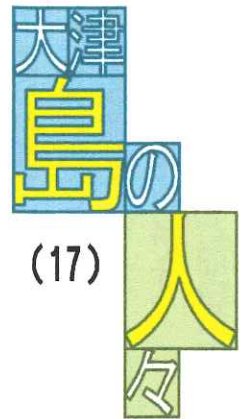


大津島データ 192世帯
人口 275人 男113人 女162人
高齢化率 78.9%
(平成 29年 5月 31日現在)

題字：六郎万淳一さん イラスト：あゆ子さん



潮流



いしまるかすこ
石丸和子さん



当時の魚雷整備工場を撮影した画像

今回は、大津島とは切っても切れない回天について、当時のことを良く知る方のおひとり、石丸和子さんにお話しを伺いました。
インタビュー 三崎英和
※文中は敬称を省略させていただきます。

■女子挺身隊に動員される前は
大津島の青年学校を卒業後2年間、出雲の方で働いていましたが、戦局の悪化に伴い馬島へ帰省しました。その後、挺身隊として魚雷の整備工場で働き始めました。

■それはいつごろですか
昭和18年です。
■挺身隊員は何人ぐらいおられましたか
1期がおよそ20名で、私は2期になり、その数は8名でした。
■勤務は何時から何時までですか
8時から16時までです。
■どんな仕事でしたか
回天基地ができるまでは魚雷の整備です。魚雷のエンジン部分にある、酸素を燃焼室に定圧で送るための緩衝器や副緩衝器にガスが漏れないか、水を入れて確かめる仕事を2人でしていました。他の人は、他の部品をチェックする仕事だった。

たり、事務や被服の仕事をしていました。
■手当てはありましたか
1日、32円いただきました。
■回天訓練基地となったことを知ったのは
事務担当の同期の隊員から、「人の乗る魚雷になる」と聞いてからです。
■回天基地が設置されて以降は
回天関係の軍人さんとは隔離するというので、魚雷の整備から、呉の海軍工廠から来ておられた階級の高い高等官の方々の炊事担当になり、ふれあいセンターの南側にあった炊事棟で働いていました。
■ということは回天の隊員と接する機会は
隊員さんたちの身の回りのことは、回天関係の軍人さんがやっておられましたから、見かけることはありましたが、直接、話をすることはありませんでした。
■出撃時に挺身隊員も見送ったとの証言がありますが隊員の方々の近くには行

けませんので、今の
大津島公園の公衆トイレあたりにあった建物の中から手を振って見送りましたが、そういった機会は多くはありませんでした。
■終戦となったことはどのようにして知られましたか
やはり事務をしている同期生が教えてくれました。
■結局いつまで働いていましたか
残務整理のため、終戦後数ヶ月は工場にいました。
■特に印象に残っていることは
食糧倉庫にはたくさん食べ物があったことでしょうか。パイナップルの缶詰や乾燥バナナ、お酒などがありました。たまにお裾分けをしていただけることがあり、あまり食材が手に入らない時代、ありがたかったです。
■当時のことを今、思い出してみると
負けたら崖から飛び降りて自決しなければいけないという噂もありましたから、日本が勝つために一生懸命働いていたということでしょうか。



4. クレーンとアンカー

文二回天記念館

三崎英和

巡航船が徳山港に近づくと、晴海心頭のコンテナターミナルに、夜景ツアーで有名になった赤白と青色の巨大な2組4本のクレーン(ガントリークレーン)が見えてきます。

このクレーンは、4本の柱の上部にコンテナを釣り上げる長いタワーがついているため、そのタワーが空に向けられているときはキリンに、海と平行に向けられているときはゾウに良く例えられます。

しかしクレーンの元々の英語の意味はツルです。

以前のクレーンは、その形がキリンやゾウではなくツルに似ていたことから、クレーンと名づけられたのでしよう。

同じように元々の意味が拡張して使われている言葉がまだあります。

コンテナターミナルに錨を降

ろして停泊

している船。

この錨は英語ではアン

カーですが、

陸上などの

リレー競技

で最後に登場する人もアンカー

と言いますね。

この二つの言葉にはどのような

関連があるのでしょうか。

アンカーの意味は、元々は錨で

すが、綱引き競技で最も後ろを

引っ張っている人もアンカーと

呼ばれていたようです。

つまり、船が錨を降ろした時の

ように絶対に動かないことが求

められるためです。

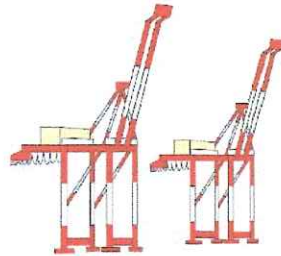
そのついでにこの言葉が最終に登場

する選手もアンカーと呼ばれて

きているようです。

調べてみる面白いですね。

調整



3. リヤカー

文二渡辺あゆ子

これは、父から聞いた話です。

ある晩のこと。父は犬を連れて、いつもの海岸沿いの道を散歩していました。すると、向かいからリヤカーを引いたおばあさんが、ゆっくりゆっくりやって来ます。それは当時島の中で行商をしているおばあさんでした。

「こんばんは」父が言うと、「こんばんは」と返事をして、おばあさんはまたリヤカーを引いて、ゆっくりゆっくり歩いて行きます。

犬がいつまでもおばあさんの方を見ているので、「あんまり見るなよ」と父は犬をたしなめました。

「あのおばあさんは、確かもうずいぶん前に亡くなってるんだがなあ」島のお年寄りには、今も昔も働き者です。そのおばあさんは亡くなってからも、まだ働き続けているのでしようか。

父の耳には、おばあさんがゆっくりゆっくり引いて行くリヤカーの音が、いつまでも耳に残っていたそうです。



お知らせ

【次回潮流発行予定日】
9月1日 第257号

移動図書館 やまびこ号ジュニア

7月19日(水)

8月4日(金)

9月1日(金)

馬島11:30~ 刈尾12:20~

善意銀行へのご寄付ありがとうございます

- ▼預託者 ご遺族 河嶋隆之 様
父 河嶋芳隆 様の香典返しとして
金10万円(市社協2万円、大津島社協8万円)
- ▼預託者 ご遺族 石丸茂子 様
夫 石丸一磨 様の香典返しとして
金10万円(市社協2万円、大津島社協8万円)

【編集後記】 多くの方と接しながら過ごしてきた1年でしたが、また大切な方がお亡くなりになりました。編集作業で写真を見るたびに寂しい思いがつのります。

一期一会。出会うことができた皆さんと良い関係で良い時間を過ごせたらと願っています。

文責：神杉

知っちょるかね

ええくんばい

文川松本千恵子

ひどく寒い日に温かい風呂に浸かって、「ああ、ええくんばい」

または、暑い暑い日に海に飛び込んで、「ええくんばい」

ええ具合とええ案配が、一緒になって生まれた言葉じゃろうか。

とにかく心地良い時や、物事がうまくいった時などに、島では、「ええくんばい」を使う。

昔、バアサマたちが磯に行くと、思いがけなくたくさん獲物があった時とか、小日和で畑仕事の心配もなく、仲間とお話し講をする時「ええくんばい」を使いよったね。

時代はまだまだ厳しくて食べるものさえ腹太(はらふ)っくら※1食べたことはない。学校にだって、藁草履で行ったり、雨降の日は、

「どんだ」という、綿入れの、使いに使って、ツギハギだらけの元の模様じゃあ

なんじゃあ判らんようになったのを、頭から被って通った。弁当も、持って来れ

ん子もいたし、持って行っても、麦ばかりのご飯や、

浸け菜だけの中身を見られるのが嫌で、隠して食べたり。竹輪なんかがあったら、

大ご馳走。

子供心にも、情けない思いをいっばいしたが、子供

というものはそんな中에서도たくましく毎日を送っていた。大人たちの世界はそんな中、現金収入もなく、子

供たちを学校にやるだけでも、大変な事だった。その上、畑も家事も全部手仕事。

そんな暮らしに、ささやかな楽しみのもれだけ貴重な事か。難しい事も、情け

な事も、いっとき忘れさ

せる「ええくんばい」を楽しむ。いやいや厳しい日常だからこそ、「ええくんばい」が有り難い。この頃は

何もかも便利になって、辛い労働もなくなり、小日和をする人も少なくなった。

朝から晩まで、がしりああて※2、ゆうに座っちょる事

じゃあなんじゃあ、年に何回もなかつたから、くたび

れた身体で、風呂に入って温まり、ぬくぬくと布団に

入り、まごろむときの、「ええくんばい」

金にもご馳走にも変えられん心底の「ええくんばい」

便利になりすぎて、却って気付き辛い「ええくんばい」じゃが、この世にある

事だけでも「ええくんばい」と思う今日この頃じゃった

りするので、皆さまにたくさんの「ええくんばい」がありますように。

※1 腹太っくら…おなかいっぱい
※2 がしりああて…爪に火を灯して頑張る様

ひろしのつばき

文川屋野廣志

重たい此の靴をもう何年も履いて居る。少しも破れない。歩行時間も少し歩

行要領も変わったのか、若い頃より足癖が悪く靴の消費は多かった。何故か右

足の靴の外側が異常に早く破れた。此の足癖が人工股関節治療に連なるのか。

子供の頃から常におどどと小走りで歩いて居た。その癖は採石工になって

も変わらず切小破や砂利の中を小走りで地下足袋の消費は特に多かった様に

思ふ。当時、屋外労働者の履物は地下足袋で、真新しい足にびったりの地下足

袋の履き心地は何にも増して働く意欲を高め活躍出来た。戦後復興は此の地下

足袋にあったのではなにか。福助、月星、世界長

などど地下足袋の銘柄を思い出すだけで懐かしい。我が大津島消防団の小型ポンプ操法大会に上位を

ねらい、さっそうと地下足袋姿で参加したが、順位を上げる事は出来なかった。

地下足袋姿を思い出すに昭和40年〜50年頃? 毎日の様に魚市場で魚を仕入

れ、昔の細い山道を負子に背負い売り歩き配達して

呉れた馬島の先輩婦人の事を移動販売車に重ねて思い出す。当時の大津島は

採石工も船乗業も盛んで夫婦共稼で風間は留守宅

が多く、家族に似合った量の魚を、当時の流し台は土間で腹をあげ、すぐに料理

が出来、又、猫に取られぬ様にと重しを置いて下さ

ったおばさんを思い出す。代金は有る時払いで有難かった。「急ぐな 転ぶな 風邪ひくな」老人の注意事項に履物は地下足袋で

と・・・ひろしひろしつばきへ。
※原文のまま掲載しています。

行事報告

島の主なできごとを写真で振り返ります。

砲台山整備

5/28(日) 大津島観光協会と若潮の会が砲台山の整備を行いました。今回は山頂に新たなベンチを設置しました。



北部球技大会

6/18(日) 体育振興会で参加しました。須金、中須、須々万、長穂地区のみなさんと、中須中学校体育館でソフトタッチバレーボールとカローリングの大会を楽しみました。



ハートフル人権セミナー

6/21(水) 馬島公民館に約50人の皆さんが集まりました。今、話題の「終活」のお話しなど学び、マジックショーなどで楽しみました。



若潮の会総会

5/21(日) 若潮の会が海の郷において、総会を開催し、今年の活動方針等を決定しました。



これからよろしくお願ひします

大津島地区民生委員協議会の委員の交替がありました。



渡邊あゆ子さんが、新たに会長に就任されました。

石田信行さんが、新たに本浦地区の担当に就任されました。



お世辞に参りました

奇しくもツバメのヒナが巣立ちを迎えるこの時期に

「ヤマトリ コノタビ 母ニナリ 大津島ヨリ 飛ビタチマス」
島の皆さま、そして島ネコたちに心からの感謝を。

ふれあいセンター 嶋末由紀

潮流編集委員として「ヤマトリ雑記帳」を担当していただきました。また島に遊びに来て下さいね。

平成29年度の島の主な行事予定(年間)

- | | |
|-----------|----------------|
| 4月 1日(土) | 桜まつり・コンサート |
| 5月28日(日) | 砲台山整備 |
| 6月21日(水) | ハートフル人権セミナー |
| 7月中旬(未定) | 学校グランド整備 |
| 8月13日(日) | アイランドカップ【若潮の会】 |
| 9月15日(金) | 敬老会 |
| 9月25日(月) | 須金地区との交流会(須金) |
| 10月 8日(日) | 学校グランド整備 |
| 10月22日(日) | 防災運動会 |
| 12月 3日(日) | ポテトマラソン |
| 12月17日(日) | 砲台山整備 |
| 2月11日(日) | 文化祭・建国記念奉祝行事 |